

〈文化学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
表象文化史特論 A	松友 知香子	1・2	2	北方文化史特論 A	川上 淳	1・2	2
表象文化史特論 B	松友 知香子	1・2	2	北方文化史特論 B	川上 淳	1・2	2
言語特論 A	濱田 英人	1・2	2	日本文学史特論 A	田中 幹子	1・2	2
言語特論 B	濱田 英人	1・2	2	日本文学史特論 B	渡辺 さゆり	1・2	2
異文化コミュニケーション特論 A	久野 弓枝	1・2	2	比較文化特論Ⅰ A	張 偉雄	1・2	2
異文化コミュニケーション特論 B	久野 弓枝	1・2	2	比較文化特論Ⅰ B	張 偉雄	1・2	2
身体文化特論 A	瀧元 誠樹	1・2	2	比較文化特論Ⅱ A	小笠原はるの	1・2	2
身体文化特論 B	瀧元 誠樹	1・2	2	比較文化特論Ⅱ B	小笠原はるの	1・2	2
図像学特論 A	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論Ⅰ A	高瀬 奈津子	1・2	2
図像学特論 B	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論Ⅰ B	高瀬 奈津子	1・2	2
日本文学特論Ⅰ A	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論Ⅱ A	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論Ⅰ B	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論Ⅱ B	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論Ⅱ A	田中 幹子	1・2	2	先史文化特論Ⅰ A	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論Ⅱ B	田中 幹子	1・2	2	先史文化特論Ⅰ B	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論Ⅲ A	荒木 奈美	1・2	2	先史文化特論Ⅱ A	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論Ⅲ B	荒木 奈美	1・2	2	先史文化特論Ⅱ B	(本年度休講)	1・2	2
日本語特論 A	杉山 暦	1・2	2	先史文化特論Ⅲ A	(本年度休講)	1・2	2
日本語特論 B	杉山 暦	1・2	2	先史文化特論Ⅲ B	(本年度休講)	1・2	2
日本史特論 A	(本年度休講)	1・2	2	先史文化特論Ⅳ	(本年度休講)	1・2	2
日本史特論 B	(本年度休講)	1・2	2	考古学専門実習	(本年度休講)	1・2	2
北方文化特論Ⅰ A	(本年度休講)	1・2	2	文化財の保存活用特論	(本年度休講)	1・2	2
北方文化特論Ⅰ B	(本年度休講)	1・2	2	文化学特論	南山 雅樹	1・2	2
北方文化特論Ⅱ A	(本年度休講)	1・2	2				
北方文化特論Ⅱ B	(本年度休講)	1・2	2				

〈地域経営学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
企業文化の国際比較特論 A	汪 志平	1・2	2	マーケティング特論 A	角田美知江	1・2	2
企業文化の国際比較特論 B	汪 志平	1・2	2	マーケティング特論 B	角田美知江	1・2	2
事業創造論特論 A	武者 加苗	1・2	2	企業経営と財務諸表特論 A	岩橋 忠徳	1・2	2
事業創造論特論 B	武者 加苗	1・2	2	企業経営と財務諸表特論 B	岩橋 忠徳	1・2	2
地域活性化特論 A	中山健一郎	1・2	2	情報科学特論 A	伊藤 公紀	1・2	2
地域活性化特論 B	中山健一郎	1・2	2	情報科学特論 B	伊藤 公紀	1・2	2
地域経済学特論 A	(本年度休講)	1・2	2	地方自治特論 A	武岡 明子	1・2	2
地域経済学特論 B	(本年度休講)	1・2	2	地方自治特論 B	武岡 明子	1・2	2

教育課程と教員一覧「特別演習」

令和6(2024)年度開講

〈文化学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
表象文化史特別演習A	松友 知香子	2	2	北方文化特別演習ⅡA	(本年度休講)	2	2
表象文化史特別演習B	松友 知香子	2	2	北方文化特別演習ⅡB	(本年度休講)	2	2
言語特別演習A	(本年度休講)	2	2	北方文化史特別演習A	川上 淳	2	2
言語特別演習B	(本年度休講)	2	2	北方文化史特別演習B	川上 淳	2	2
異文化コミュニケーション特別演習A	久野 弓枝	2	2	比較文化特別演習ⅠA	張 偉雄	2	2
異文化コミュニケーション特別演習B	久野 弓枝	2	2	比較文化特別演習ⅠB	張 偉雄	2	2
身体文化特別演習A	瀧元 誠樹	2	2	比較文化特別演習ⅡA	小笠原はるの	2	2
身体文化特別演習B	瀧元 誠樹	2	2	比較文化特別演習ⅡB	小笠原はるの	2	2
日本文学特別演習ⅠA	荒木 奈美	2	2	比較歴史特別演習ⅠA	高瀬 奈津子	2	2
日本文学特別演習ⅠB	荒木 奈美	2	2	比較歴史特別演習ⅠB	高瀬 奈津子	2	2
日本文学特別演習ⅡA	田中 幹子	2	2	比較歴史特別演習ⅡA	(本年度休講)	2	2
日本文学特別演習ⅡB	田中 幹子	2	2	比較歴史特別演習ⅡB	(本年度休講)	2	2
日本語特別演習A	(本年度休講)	2	2	先史文化特別演習ⅡA	(本年度休講)	2	2
日本語特別演習B	(本年度休講)	2	2	先史文化特別演習ⅡB	(本年度休講)	2	2
日本史特別演習A	(本年度休講)	2	2	先史文化特別演習ⅢA	(本年度休講)	2	2
日本史特別演習B	(本年度休講)	2	2	先史文化特別演習ⅢB	(本年度休講)	2	2
北方文化特別演習ⅠA	(本年度休講)	2	2				
北方文化特別演習ⅠB	(本年度休講)	2	2				

〈地域経営学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
企業文化の国際比較特別演習A	汪 志平	2	2	マーケティング特別演習A	角田 美知江	2	2
企業文化の国際比較特別演習B	汪 志平	2	2	マーケティング特別演習B	角田 美知江	2	2
事業創造論特別演習A	(本年度休講)	2	2	企業経営と財務諸表特別演習A	岩橋 忠徳	2	2
事業創造論特別演習B	(本年度休講)	2	2	企業経営と財務諸表特別演習B	岩橋 忠徳	2	2
地域活性化特別演習A	中山 健一郎	2	2	情報科学特別演習A	伊藤 公紀	2	2
地域活性化特別演習B	中山 健一郎	2	2	情報科学特別演習B	伊藤 公紀	2	2
地域経済学特別演習A	武者 加苗	2	2				
地域経済学特別演習B	武者 加苗	2	2				

※1 修了要件は32単位以上。専攻科目4単位を含め、1年次で20単位以上を修得すること。

※2 特別演習(修士論文の指導)を履修するためには、課程修了予定の前年度末までに20単位以上を修得していなければならない。

講義開講時間

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時	7講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30	19:40～21:10

開設科目と講義等の内容(参考)

〈文化学分野〉

表象文化史特論 A・B	松 友 知 香 子	芸術の創造者は、古くは〈職人〉という意識のもとに自己形成をしてきたが、近世より〈芸術家〉という自立した職業観が成立して以来、芸術家のイメージは、社会の変化とともに大きく変貌している。特にロマン主義以来、〈孤独な芸術家〉あるいは〈不遇な芸術家〉というイメージが社会に定着するが、個々の芸術家のイメージ変遷を探るべく、この講義では葛飾北斎(1760-1849)を取り上げ、北斎が登場する様々な映画やドラマを手がかりとして、北斎イメージの変遷とその社会的な背景を考察する。
言語特論A	濱 田 英 人	本特論では、ことばと認識について知覚作用と認識作用の視点から考察する。具体的には知覚対象の認識から言語化に至る過程でどのような知覚操作が関わっているのかについて理解を深める。我々は、対象物を知覚すること、それは目の網膜から脳内に取り込まれることで表現(representation)が生じ、それを言語化の対象としている。このことから言語は脳内現象であり、知覚対象の言語化には認知主体の一定の認知処理が必然的に関与している。その認知処理のメカニズムを明らかにすることによって言語の本質について理解を深める。
言語特論B	濱 田 英 人	本特論では、前期の基礎研究を踏まえて、言語話者の事態認識の在り様と言語化の関係を具体的な言語現象を考察することによって明らかにする。 具体的には、言語話者が基本的な認知能力を活性化して世界をどのように切り取っているかが個別言語を特徴付けていることを日本語と英語の言語現象を対照的に考察することによって明らかにする。
異文化コミュニケーション特論 A・B	久 野 弓 枝	日本に定住を志向する外国人は増加傾向にあるが、受け入れ政策は来日する外国人にとって十分とは言えない。この授業では日本語を第二言語とする人びとに対して日本語教師として何ができるのか、日本語教師の専門性とは何か、を多文化共生の視点から考えてみたい。さらに、日本語のサポートや日本語教師の専門性について理解を深めるため、日本語教育における質的研究方についても検討する。
身体文化特論 A・B	瀧 元 誠 樹	本特論では、スポーツする身体における問題性、またスポーツする身体から見えてくる歴史的・思想的問題性について、検討する。具体的には、西谷修の著作から「身体」「夜」「分割＝分有」等の概念を、竹内敏晴の著作からは「ことば」「からだ」「劈く」等の概念を読み解き、こうした概念をもとに、ディスカッションする。
日本文学特論ⅠA・B	荒 木 奈 美	先人及び同時代人の文学作品(小説・批評)や文学研究を通して、現代を生きる人びとの諸問題について自己の批評ができるようになることを目標としている。取り上げる作品は受講者と相談しながら定める。文学作品を単なる「考察」を超えて「文学研究」にまで高めるためには、ジャンルや時代を超えた読書習慣と広い視野で物事を捉える柔軟な姿勢が不可欠である。授業での課題のみならず年間を通じて数多くの書籍と格闘してほしい。 (本授業は日本文学特論ⅢA・Bと隔年開講となっている)
日本文学特論ⅡA・B	田 中 幹 子	『源氏物語』の各巻の内容を把握した上でその巻の核となる歌を取り出し分析する。
日本文学特論ⅢA・B	荒 木 奈 美	最新の教育事情を取り入れながら、「5年先の子どもたちが求める教育を考える」をテーマにした国語教育の方法を問う。2022年度はオランダのオルタナティブ教育の成功例に学び近隣の小中高校に「学びで若者がつながる」場を実際に作ることを目指した。2024年度は、伊庭崇『クリエイティブ・ラーニング』を読み、現代の教育に欠けている〈予定不調和な状況でいかに創造的に、そのつどの処し方を自らが定めながら生きるべきか〉を受講者とともに考えている。(本授業は日本文学特論ⅠA・Bと隔年開講となっている)

日本語特論 A・B	杉 山 暦	主として言語研究を目的に、書き言葉や話し言葉などを大規模に、特定の基準に沿って網羅的に収集し、コンピュータ上で処理できるデータとして保存したものを「コーパス」と呼ぶ。また、コーパスに基づいて言語の諸特性を観察、分析する研究実践を「コーパス言語学」と呼ぶ。本講義では、コーパス及びコーパス検索に関わる知識を身に付け、コーパスを用いた言語研究の方法論を学ぶ。
日本文学史特論 A	田 中 幹 子	平安文学にみられる社会制度・文化・政治などを作品の中から具体的にピックアップし、歴史的事実と合わせて読むことで、作者の意図を考察します。
日本文学史特論 B	渡 辺 さゆり	人形浄瑠璃は義太夫節と人形・三味線による三位一体の演劇である。江戸時代は人形浄瑠璃の人気作品が歌舞伎として上演されることがしばしばあった。「日本文学史特論B」では人形浄瑠璃の基礎を学習しながら、『菅原伝授手習鑑』や『首根崎心中』の名場面を読解する。併せて映像を鑑賞し、人形浄瑠璃の魅力にせまる。
比較文化特論ⅠA	張 偉 雄	比較文化という学問は、一国一民族の文化を越えた文化事象を考察するものである。本講義は近代日中の文化人を対象に彼らは如何にして自文化を越え異文化に出ていくのか、そして異文化の中で如何に行動をしていたのかを考察してみる。考察の対象は彼らの残された作品である。これらの作品を比較文学文化の手法で読解し、比較文学文化研究の対象、方法、目的、および研究者のあるべき姿勢について論じる。(中国語の読解力が必要)
比較文化特論ⅠB	張 偉 雄	比較文化研究の方法の一つとして「翻訳研究」がある。これは文化間の交流、受容、変容を考察する有効な手段である。翻訳の変容や「曲解」を指摘することによって、異文化に位置する原作者、翻訳者、或いはその両文化に位置する読者層に対する認識を深めて行く事ができ、異文化理解につながるものである。本講義ではイギリスの東洋学者、翻訳者であるArthur Waleyを中心に、翻訳を通して異国の文化が受容され、変容されていく実態を分析してみる。(英語・中国語の読解力が必要)
比較文化特論ⅡA・B	小笠原はるの	この講義では、人と人とが違いにむすびつくことやその関わり方など、社会の基盤となるコミュニケーションについて、さまざまな視座から考察する。アイデンティティ、自己と他者、行為と演技、関係と距離、場の論理、話すことと書くこと、消費と生産、メディアと社会など、コミュニケーションの諸概念を理解したうえで、身の回りや社会におけるコミュニケーション活動を分析する手法を学ぶ。その上で、自己や他者の語り、思考、表現を通して、社会におけるコミュニケーションのありようについて考察を深めていく。
比較歴史特論ⅠA・B	高 瀬 奈 津 子	隋唐時代は、中国史上、政治・社会経済・文化の面で最も華やかだった時代である。本授業では、東部ユーラシア地域における隋唐王朝の位置づけを理解し、隋唐時代の中国社会・文化の多様性を理解することを目的に、隋唐史研究の古典的論考である陳寅恪著『唐代政治史述論稿』を読み、あわせて引用されている史料を分析しながら、歴史研究の手法を学ぶ。
文化学特論	南 山 雅 樹	本講のテーマは、「文化の融合」です。音楽を鑑賞し、その成り立ちを分析・紹介します。主としてジャズ、クラシックを採り上げ、その歴史的変遷、どのような文化が融合して生まれたのかを検証し、ポピュラー音楽全般への影響についても考察します。

教員紹介



地域・文化学研究科 文化学専攻 教授

久野 弓枝 Kuno Yumie

担当科目 異文化コミュニケーション特論A・B

出身：北海道小樽市出身

学位：北海道大学大学院教育学研究科修了（教育学博士）

専門：日本語教育・異文化間教育

略歴：青年海外協力隊日本語教師（スリランカ）

小樽商科大学、北星学園大学等で非常勤講師

札幌大学准教授

01 プロフィール

札幌大学では留学生への日本語教育と日本語教師養成を行っています。留学生への日本語教育では、留学生が大学生活で困らないよう学部授業のサポートを中心に様々な活動を行っています。特に力を入れているのは、日本人学生や地域の方々との交流活動です。「雑談」や「プロジェクトワーク」などの活動を通してコミュニケーションの方策を学んでいてもらいたいと思っています。

日本語教師養成課程では日本語を第二言語とする人々を取り巻く社会の課題、異文化コミュニケーション、日本語の教え方、日本語教師の専門性などを学生と一緒に検討しています。

02 研究分野紹介

地域の日本語教室について研究しています。地域の日本語教室は大学や日本語学校とは異なりボランティアの人々が担い手となって運営しています。そこには、様々な学びがあり地域によっても異なります。

一方で、日本語を学習したくても日本語教室が近隣に存在せず、言語学習の権利が保証されていない人々もいます。この問題を解決するには時間がかかりますが、地域の日本語教室で起きている学びのプロセスを検討しながら、どのようなサポートができるのか、研究を深めていきたいと思っています。

さらに、日本語教師を取り巻く環境の改善についても、労働に関する専門家と研究を始めています。学習者が多様化し日本語教師の専門性について議論されることも多くなりましたが、社会的地位や待遇面でまだまだ問題があり、悩みを抱えている日本語教師も少なくありません。新しい研究領域ですがチャレンジしていきたいと思っています。

03 地域・文化学研究科の特色

地域、文化学の各分野（経済学、経営学、歴史、異文化コミュニケーション、スポーツ史など）を皆さんの関心に応じて学ぶことができ、多角的な視点から研究テーマについて検討することが可能です。また、少人数制であるため、個々の事情に即した履修形態が可能です。

04 大学院生活で学んでほしいこと

修士論文を完成させるプロセスを大切にしてもらいたいと思います。まず、論文やテキストを読んで情報を取捨選択し統合する能力を養いましょう。次に、研究手法についても学び自分が行った調査について、詳しく説明できるようになりましょう。

大学院では研究を通じて色々な人との出会いもあります。人との対話によるコミュニケーションを大切に視野を広げていてもらいたいのです。

〈地域経営学分野〉

企業文化の 国際比較特論 A・B	汪 志 平	社会の中で企業はどうあるべきかどう行動すべきかについて、文化的なアプローチと国際的なアプローチを用いて企業倫理を捉え、21世紀のあるべき企業像を理解する。さらに、現代の企業倫理とコーポレート・ガバナンスについて国際比較を通じ理解を深める。
地域活性化特論 A・B	中山 健 一 郎	本授業では、地域経営に焦点を当て、地域の活性化とは何か？またどうあるべきかについて考察する。特にSDGsやCOVID-19に起因する新北海道スタイルに対して地域経営はどう変化し、どう対応すべきなのかを考察する。特に、本授業は生産管理論、品質管理論、希望学入門を取り入れたレジリエンス、ニューノーマル、パラダイムシフトの視点から考察する。
地域経済学特論 A・B	武者 加 苗	本講義では、地域経済学、都市経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から学ぶ。同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は様々ではない。一般に、地域経済ではヒト・モノの移動が容易であり、国際経済より開放的であると言われる。 これらの学びを通じて、基礎的な地域経済のモデル及びその考え方を修得する。 なお、テーマは参加者の関心を考慮して対応するため、テキストは初回授業時に最終決定する。
マーケティング特論 A・B	角 田 美 知 江	本講義では、文献の輪読を通じて、マーケティングの概念を理解し、研究への分析視点を得ることを目的としています。また、輪読を通じて得た知見を活かし、地域の企業におけるマーケティングについて議論します。また、文献の輪読、事例の議論、プレゼンテーションを通じて、理解を深めていきます。
企業経営と 財務諸表特論 A・B	岩 橋 忠 徳	企業によって作成および開示される財務諸表は、各種の利害関係者が企業経営に関連する様々な意思決定を行ううえで非常に有用である。財務諸表に含まれるB/S、P/L、C/F、S/Sといった各財務表の計算構造を学んだうえで、それらの財務表が作成ならびに開示される根拠となる諸会計基準について考察する。また、企業経営において財務諸表を実践的に活用するために、有価証券報告書等を用いた経営分析の理論や技法についても考察する。
情報科学特論 A・B	伊 藤 公 紀	近年、AI(Artificial Intelligence, 人工知能)が発達し、社会の様々な分野でその利用が求められつつある。コンピュータに問題解決をさせるためには、その解法をアルゴリズムとして表現しなければならない。AIも同様である。身の回りにある膨大なデータから情報を取り出す統計的手法や、情報をコンピュータが扱うことのできる知識とするためのアルゴリズムについて理解を深めていく。
地方自治特論 A・B	武 岡 明 子	地方自治体は私たちにとって最も身近な「政府」であり、様々な行政サービスを提供する一方で時に私たちの権利を制限し義務を課す権力的な存在でもある。分権型社会と言われて久しいが、複雑多様化する行政需要にどう対応するか、国との役割分担のあり方、首長のリーダーシップ、議員のなり手をどう確保するかなど、自治体を取り巻く環境は年々、厳しさを増している。本特論では、地方自治が直面する現状と課題について学び、その改革方策について検討する。

【平成15(2003)年度】

- ・長崎原爆爆心地・浦上の記憶をめぐる考察
- ・田上義也の戦後期の建築活動
 - ユースホステルと北海道銀行の建築を中心として→
- ・中村正直の異文化論考
- ・日中両国における端午節の変容に関する考察
 - 七・八世紀を中心に→
- ・北海道の細石刃石器群における黒曜石露頭直下での石器製作技術
 - 白滝村幌加沢遺跡跡間地点の検討→
- ・メディアと寺山修司
 - 挑発するテキストと読者論のはざまに→
- ・声ニナヌ声 トリン・T・ミンハ論

【平成16(2004)年度】

- ・社会的監視の系譜学的考察
 - 監視社会論の研究手法についての試み→
- ・北海道における石刃石器群の適応戦略
 - 黒曜石石材の獲得とその消費過程→
- ・環状土甕の研究
 - 属性の系統・構築技術・分節構造を中心に→
- ・北海道における細石刃文化前半期の石器群の様相
 - 新たな技法類型をもとにした細石刃製作技術の一考察→
- ・遺骨発掘返還運動に関する研究
 - 北海道朱鞠内の事例を中心に→
- ・源氏物語における権威
 - 柏木の人物論をめぐる→
- ・『かげろふ日記』における唱歌からみる道綱母
 - 主題形成との関連から→
- ・ギュスターヴ・モローのサロメと仏教美術
- ・コミュニケーションとしての演奏
 - 複合的音楽意味への眼差し→
- ・北東アジアにおける海上安全保障問題に関する一考察→日本・韓国を中核とする事例として→
- ・子母沢寛の作品における周縁化された人物の近代史
- ・日本における「肉」と「肉食」考
- ・国会議事堂の比較研究の試み
- ・旧石器時代における石材獲得戦略の研究
 - 特に北海道西部の頁岩産地について→
- ・韓国映画の現在
 - 『ブラザーフッド』を切口にして
- ・戦略としてのテレビジョンと広告としての戦争
 - 湾岸戦争の時の「油まみれの水鳥」と「ナイラ証言」→
 - のような映像シーンはどのようにして生まれたのか
- ・広告映像における表象行為とアイデンティティをめぐる政治学
- ・日中蜜神物語の文化形態に関する比較文化的考察
 - 蜜神物語における日中文化の相違点と共通点について

【平成17(2005)年度】

- ・『日本霊異記』と経典の関連性について
- ・人形アニメーションにおける新たなリアリティの誕生とその可能性
- ・火葬場のデザインに関する一考察
- ・「障害」から「文化」へ
 - ろう者の手話とその思考についての考察
- ・内山完造の異文化体験に関する研究
- ・源氏物語の人物造型に見られる美意識
 - 紫上像の比喩表現を通して→
- ・孫晋泰の『朝鮮民譯集』研究
 - 中村亮平の『朝鮮童話集』との比較・分析→
- ・カレル・タイゲ
 - チェコモダン・アヴァンギャルドと引用の魔術

【平成18(2006)年度】

- ・朝鮮近代史における急進的開化派についての一考察
 - 開化派の誕生から甲申政変まで→
- ・歴史教科書における「正しさ」にひそむ問題
 - 教員の視点と教科書記述の相同性と差異→
- ・「オシラ神」信仰の担い手とその展開
 - 近代北海道を事例として→
- ・日露戦争への道程の一考察
 - 日英同盟と日露交渉を中心に→
- ・親日派一考察 宋秉駿の生涯とその時代→
- ・カタカナ語使用の一側面からの考察

- カタカナ語の役割とカタカナ語教育→
- ・郭沫若の異文化体験と受容
 - 『女神』の創作から見る→
- ・植民地期朝鮮の「プロ文学」に関する一考察
 - 1926年から1938年までの朝鮮人作家の日本語評論作品や朝鮮における「読書大衆の状況」を手がかりに→
- ・異文化の人間関係
 - 在中日系合弁企業における職場観の比較
- ・非母語創作の意味と属性
 - アメリカにおける中国系新移民作家ハ・ジンを読んで→
- ・岡千切の中国における異文化体験について
- ・北海道縄文時代の動物意匠遺物
 - 表象されたモノからみえる人と動物とのかわり→

【平成19(2007)年度】

- ・日本上代文学から見た色彩文化
 - 中国五色観念との比較を通じて→
- ・明治40年代の北海道における教育的野球観の形成過程に関する一考察
 - 「野球害毒論争」と安部磯雄の思想に着目して→
- ・『五輪書』における身体観について
 - 「拍子」に表れる宮本武蔵の意図を探る→
- ・「イヨマンテ」像の変遷
 - 儀礼研究に働いた力学と儀礼呼称の関係→
- ・近世アイヌ文化期における動物骨集積の研究員塚・獣骨集中の分析からみる集落構造の検討
- ・『類聚神祇本源』『天地開闢篇』における分析
- ・『紅楼夢』の日本語訳に関する研究
 - 伊藤漱平訳前八十回を中心に
- ・大連の都市形成と都市観光に関する研究
- ・中世日本陰陽道について
 - 『董蓮内伝』『董蓮抄』を中心に
- ・氷心の日本における異文化体験について
 - 1946年から1951年までの日本論を通して
- ・曽根俊虎の中国における異文化体験について
 - 『北支那紀行』『清国漫遊話』を通して
- ・中国と朝鮮戦争→参戦理由に関する一考察→
- ・内モンゴルの生態環境と遊牧の変遷
 - その相関係に関する一考察→
- ・近世日本と中国における琉球の位置

【平成20(2008)年度】

- ・北海道産の天然秋サケの需給の現状と今後の展望
- ・環状土甕を残した社会の生業的分析
 - 北海道縄文時代後期後葉の墓制からみた研究→
- ・沖繩諸島グスク時代の農耕システム
 - フロレーション法を用いた炭化種子研究→
- ・日本語との比較における韓国語の数量表現
 - ゼロ助数詞構文を中心に→
- ・北洋艦隊と聯合艦隊の比較考察
 - 日清戦争における制海権問題を中心に→

【平成21(2009)年度】

- ・「百人一首づばかゑとき」における葛飾北斎の絵画化意識
- ・北海道における土器文化成立の様相に関わる研究
 - 特に道東部平底土器群について→
- ・『西遊記』の日本語訳に関する研究
 - 完訳本に見える翻訳の限界と可能性
- ・中国人への日本語教育における教育方法の研究
 - 多様化する学習者のニーズを大切に「グループワーク」の試み→
- ・横断するフィギュアアートとサブカルチャーの境界で→

【平成22(2010)年度】

- ・映画『TRANSFORMERS』から見る現代ロボットの表現性と身体性
- ・日本語の受身文について
 - 中国語話者への日本語教育の観点から→
- ・『東海道中膝栗毛』における中国文化
 - 麻生磯次校注を基にして
- ・吉田巖のアイヌ研究と教育の関係性について

【平成23(2011)年度】

- ・オノマトペの音と意味の関連性について
 - 非母語話者のために→
- ・受身表現における日・越対照研究→両言語の教育の為に

- ・芥川龍之介の中国における異文化体験→『支那遊記』を中心に
- ・ホジェン族におけるクマ送り儀礼の研究
- ・『詞八衢』における証例の典拠についての考察
- ・再祚した女帝の比較

【平成24(2012)年度】

- ・復興における被災観光地の役割
 - 松島と周辺地域を事例として
- ・日本語との比較における中国語の数量表現
 - 人間の体を表す言葉を用いた量詞を中心に

【平成25(2013)年度】

- ・北海道東部地域におけるアイヌの伝統的葬送儀礼
 - 史料源蔵資料『コタン探訪帳』に基づいて→
- ・道北・道東部における擦文土器の比較研究
 - 羽幌町チライベツA遺跡の資料の検討をもとに→
- ・ゼロ世代～10年代を生きた若者についての一考察
 - 朝井リョウ『何者』を通じて明らかにする若者像→
- ・中国語の「的」と日本語の「的」の比較対照研究
 - 連体修飾助詞としての用法を中心に→
- ・授受本動詞の日中対照研究
 - 日本語「もらう」の中国語の対応問題を中心に→
- ・夏目漱石の中国観についての考察
 - 『満韓とところどころ』を中心に
- ・アイヌ社会におけるオットセイ猟の変遷
 - 蝦夷地と北奥諸国を中心に→

【平成26(2014)年度】

- ・現代の名づけについて

【平成27(2015)年度】

- ・よしもとばなな作品に描かれた「人間」に属する人々のつながりについて→短編集『さきちゃんたちの夜』に描かれた人間関係を中心に
- ・芥川龍之介と『聊斎志異』→その受容と創造
- ・夏目漱石『こころ』論→罪意識を中心に→
- ・蝦夷錦の交易と紋様の年代観
- ・ナラティブとリフレクションによる「当事者」の自己発見
- ・アイヌのシカ認識→口承文芸を中心に→
- ・アイヌ文化におけるイヌの役割

【平成28(2016)年度】

- ・ソ連軍の南千島進駐と残留島民

【平成29(2017)年度】

- ・伊能大図蝦夷地部分における伊能と間宮の関係
- ・宮澤賢治童話における割り切れない感情とそこから照射された読者自身の思考形態の問題
- ・戦前期北海道と樺太における土工部屋の歴史的位置づけ
 - 1905年～1935年を中心に→
- ・近世後期後志地方におけるアイヌと和人の関係について
 - ヨイチ・ラタス・イソヤを例に→
- ・月寒の忠魂納骨塔→歩兵第二十五聯隊と月寒の人々→

【平成30(2018)年度】

- ・「自己」とは何かを問うこと
 - 「他者」から見える内面的「自己」への問い→

【令和元(2019)年度】

- ・前期幕府期のアイヌ風俗改変における最上徳内の影響
- ・『源氏物語絵巻』について
 - 「源氏物語」に込めた絵師の思いを探る→
- ・バレエ作品『春の祭典』の魅力とは何か
 - ニジンスキー、ベジャール、パウシュの作品に着目して→

【令和3(2021)年度】

- ・日本デジタルゲーム論考-JRPGにおける「フィクション」と「リアリティ」の特性
- ・中国におけるCVSの発展→民族系CVSと日系CVSの比較を中心に→

【令和5(2023)年度】

- ・日本の学校の現場から心の傷に向かい合うために
 - エピソード記述・当事者研究からのアプローチ→